

活動名	団体名	市民活動で映画製作をする会
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 浜野 省三
	支援金額	25 万円

活動概要
------

1. 本会の内容は、市民活動を基本とし一般的な趣味の映画製作をさらに活動内容に生涯学習としての側面を重点に置き、主に広島市内の公共施設(公民館・市立図書館・市管理施設)にて指導演習(撮影)を行っている。これは広島市における市民活動であることを参加者全員が意識し、かつ活動における安全面にも考慮しているためである。

2. 活動内容としては、日常ではテレビ・映画等鑑賞者の立場であるが、本プログラムにおいては逆の立場による映画製作に参加しプロ映画監督を講師に迎えキャスト・スタッフとして疑似体験を行い、日常生活における映画・ドラマのテーマ・製作意図をより深く得られることにより日常生活に役立つことが出来るようにプログラム内で学ぶ。

3. 社会問題等は書籍や映像を見て習得することが一般的であるが、本活動にて実際の撮影において、その問題をより深く自ら撮影に挑む際に学習し、作品製作に際しクオリティの高いものへと努力することで、映画製作者としてまたは、キャストとしてあたかも社会問題の当事者となり疑似体験ができる。この点はかけがえのない体験として当人に人生の中で深く心に残り青少年の時期における道徳観・価値観・人生観を形成する大きな糧となることは他県プログラムでも実証されている。

◆実施時期  
平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 12 月 9 日  
広島市中央公民館 青少年センター 市内公園 および 広島市安佐北区可部町

◆参加人数  
① 参加人員 54 名(内 青少年 19 名…男 8、女 11)  
② 参加人員 20 名(内 青少年 15 名…男 6、女 9)  
③ 参加人員 65 名(内 青少年 25 名…男 9、女 16)

参加総人員:139 名(内 青少年 59 名…男 23、女 36)



映画撮影体験ワークショップ



集合写真



映画製作ワークショップ 演技指導



映画撮影体験(フラッシュモブ)

## ◆実施に伴う効果

① プロ映画監督・女優と共に、映画製作体験を行ったことで、日頃地元広島では、舞台や地元自主映画等にて出演している青少年たちであったが、今回の製作体験は、製作映画をプロが参加する映画祭やコンテストに出品を目標として定め、プログラムの実施をおこなった。通常では経験できないプロの製作現場を経験し参加者全てが体験した内容が今まで経験したことのない内容であり、刺激になったことで今後の活動に役立つ感想であった。また、今回参加した 20 歳と 24 歳女性・42 歳男性はこのプログラム参加後、地元 CM 撮影等にて機会を得ることができて活躍しておりプログラムの実践が大いに役立つと報告を受けている（安田女子大 CM 創建ホーム CM 等）製作作品は 広島ダマール映画祭 TSS ショートショートフィルムフェスティバル ショートショートフィルム&ASIA 映画祭に出品。

もう一方では、撮影現場を可部町の古民家にて行い、もう一つの目的として広島のごき時代の家屋や残されている古物を生で見学し明治から昭和初期にかけての生活に触れることを体験し、現代の生活と見比べながら生涯学習とした。明治から昭和初期の生活什器や調度品の数々に参加者は、生活の一端を垣間見る気がしたと同時に品質や工夫の点を感じたと感想を述べている。

② 広島市青少年センターにて日頃活動している青少年を中心に映画製作体験を行った。全員でミュージックビデオを製作する目的の元に地元音楽活動グループ「SNOWDROP」を中心に映画撮影体験を進めた。日頃活動している青少年センターでの撮影は、映画製作体験をしたことのない者がほとんどであり、撮影の進行・演技・役割について勉強になったとの感想をしている。もう一つの目的である街中のフラッシュ撮影体験であるが、結果的に失敗（緊張と恐れのため）に終わり、各参加者がいかにプロの撮影・作品製作が困難であるかということもまた体験した。製作作品は、よなご映像フェスティバル出品 広島市内にて上映各参加者の感想として、映画製作や演技に興味をわいたとしている。22 歳女子 1 人は、この後地元演劇団体に参加し、11 月に南区民文化センターで初舞台経験をした。

③ ①に映画製作ワークショップの開催を踏まえ、講師であるプロ監督と監督役の女性との感想に青少年層の参加をもっと欲しかったとあり、プロ監督に多忙の中、度重なる交渉の結果、第 2 回目の映画製作ワークショップを開催することが出来た。今回は、青少年層の参加を促し、第 1 回の開催にて実績があったため、広島フィルムコミッションメーリング告知・ロコミで多くの方が参加申し込みをしていただいた。今回は演技者を中心に映画の中で監督・スタッフが要求していることを重点において、座学・演習をおこなった。演劇ワークショップは参加した経験の人が多かったが、映画監督の要求は、全く違ったものがあったため、すべての参加者から初体験で新鮮なことばかりであり、役に立ったとの感想が寄せられている。機会があれば映画出演に応募したいとの声が多かった。

## ◆苦労した点

【予算】各回の参加費用を無料とし、御財団の助成を有効利用させていただきましたが、③については、資金的に大幅超過となったため、講師と交渉の上低額にて依頼しました。3 千円徴収しましたが、東京都内においてワークショップ開催時参加費用は標準 3 万円と聞いています。予算を編成し出来る限り低額に抑えることとしましたが、東京から招聘するとすると、交通費宿泊費のみで 10 万円最低かかり、これに講師料を上乗せすると高額になることが予想されます。

【外部 PR】今回は、開催実績がないために広島フィルムコミッションにて当初告知しましたが、応募数が少なく、呼びかけを多くすることとなりました。来年は一定の実績が付きませんがさらに情宣活動を活発に行うことが必要と考えています。中国新聞社のご厚意で趣旨をご理解いただき記事にさせていただきました。

【参加者】青少年を多く募集しようとしたが、逆に告知内容が浸透しない部分がありました。よって、幅広くバランス良い参加募集を心がけ情宣活動を行う必要があると考えます。

【地域の理解】①については、安佐北区可部町 可部街道まちづくりの会との共催を願いましたが、会への理解度・認知度が薄く時間的な制限もあり、協力という形のみとなり古民家と旭鳳酒造のロケ地の提供紹介のみとなりました。ですが、中国新聞社の理解を得て記事となり一定の認知をいただきました。今後、出品作品の成果により町祭り・上映会等にて地域まちづくりへの還元活動を考えています。

②については、広島市青少年センターにおける青少年育成活動の一部と認識頂き全面的に協力していただきました。青少年センター施設利用・備品の借用について、無償にて提供を受けることが出来ました。また、館長以下職員をはじめ協力いただき、特に青少年センター内活動団体「魁」代表には青少年センター内にて世話人として段取り・仕切り等にて活動していただきました。

## ◆今後の課題・発展の方向性

総括として、東京から演劇のワークショップと称して行われたことが広島では多いと聞いているが、映画出演に特化してワークショップを開催されることは希少であったとのこと。また、子供向けに近年あったらしいがやはり、若年のために芝居の基本が多かったらしいとのこと。③開催は来年度のワークショップを多くの方が希望しており可能な限り開催の意向です。広島市中央公民館開催時に、参加費用徴収金額について問い合わせがあり総額面から商用について利用制限がかかることもあり、度重なる協議の結果、市民活動利用と認定をしていただきました。この点は講師料と徴収金額のバランスが低額だけでなく総額予算の編成に配慮の必要があり、徴収額が高額になれば商用利用として判断され、施設利用費が 4 倍になることは今後の課題です。

広島市においては、文化的認識については音楽芸術 舞台芸術については手厚い助成等が見受けられているが、映画文化については、文化というより趣味の域であるという認識が行政・市民の間はまだ根深くあります。その一因に、製作作品が一定のレベルに無いことが大きく原因していることは、否めません。今回行った映画製作ワークショップは、無料、または低額の参加費で、プロの現場と同様な状況を作り出し、各回においても最後に実際に映画撮影を行いました。実践を踏まえることで、広島の映画出演者・製作者のレベルが上がり、また出演機会の少ない者にとっても映画製作の舞台裏を観ることで、映画にますます興味をもつことでしょう。広島は、(故)新藤兼人監督など多くの映画監督を輩出した名作を製作された土地柄です。広島で製作された作品が広島のみならず全国的に認知されるレベルに向上されることが広島において映画文化の発展につながりワークショップの継続的な開催をし、目的が達成されると思います。

## ◆活動を終えての感想・意見等

当初の理念として、青少年は日常ではテレビ・映画等鑑賞者の立場であるが、本活動においては逆の立場に立ち映画製作に参加することで、撮影内容をキャスト・スタッフとして社会問題を疑似体験し作品化(非営利)する。社会問題等は書籍や映像を見て習得することが一般的であるが、本活動にて実際の撮影において、その問題をより深く自ら撮影に挑む際に学習し、作品製作に際しクオリティの高いものへと努力することで、映画製作者としてまたは、キャストとしてあたかも社会問題の当事者となり疑似体験ができる。この点はかけがえのない体験として当人に人生の中で深く心に残り青少年の時期における道徳観・価値観・人生観を形成する大きな糧となる、としました。

開催計画①②については、当初の計画・狙いを踏まえて開催しましたが、作品化まで終えたことは一定の目標を達成したと同時に少数でも、観る者の立場から表現する立場へと実践する者が現れたことは大きな喜びです。また、開催③については自らの能力のスキルアップを望む人たちがばかりであり、この方々のためにも開催し、ほぼ全員スキルアップになったとの感想には喜ばしいことと思われます。広島フィルムコミッション担当者も、今後とも開催を望まれておられました。今回の開催を通じて今後の広島映画界の発展に寄与しているのではないだろうかと思えます。(やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ)

① ②については、古民家・古物への鑑賞体験・社会現象の実体験を参加者が行うことで、生涯学習の一面としても一定の成果があったと思われまます。これもひとえに御財団よりの支援活動の賜物であり、一市民としても深く感謝申し上げます。